

町の広報紙等の配布日を月2回へ 広報お知らせ版を毎月15日に発行します

4月から広報お知らせ版の発行日が変わります。町では3月まで広報美郷を毎月1日、10日、20日に発行していましたが、4月から「広報美郷を毎月1日」、「広報美郷お知らせ版を毎月15日」に発行し、行政協力を通じて町からの配布物を各世帯に配布する回数も月2回としました。なお、発行日が土日祝日にあたる場合はその前の平日に発行し、その他の配布物についてもこれと同様に行政協力を通じて配布されます。

広報お知らせ版
↓
毎月15日発行



広 報
↓
毎月1日発行



『地域の輪と和』を広げるレンタサイクル 本町が毎日・地方自治大賞奨励賞を受賞



六郷温泉あったか山に設置されているレンタサイクル

地域独特の主體的な取り組みを顕彰する2006年度「毎日・地方自治大賞（毎日新聞社主催）」がこのほど発表され、本町の『地域の輪と和』を広げるレンタサイクルの取り組みが奨励賞を受賞しました。

このたび受賞した取り組みは、「美郷町サイクルタウン協議会」が活動の主団体となっており、本町の友好都市・東京都大田区から譲り受けた放置自転車50台を再利用して、レンタサイクルとして町内の観光拠点施設や温泉施設など6カ所に配置。町民や町を訪れた観光客に貸し出しを行っており、地域内融和につながる事業としても高く評価されました。

町では、自転車を地域内交通手段の一つと位置付け、自然環境にやさしい「エコサイクルタウン」を目指した町づくりを進めます。

28年間にわたって六郷地区の給食を行う 六郷学校給食センターが廃止されました

昭和54年11月に完成し、28年間にわたって六郷地区の小中学校の給食を行ってきた六郷学校給食センターが、町の学校給食事業の効率化のため、3月末をもって廃止されました。

同センターには、ことし、六郷小学校を卒業した卒業生から感謝の言葉や好きな給食メニューなどが書かれたメッセージが寄せられ、給食を作り続けてきた職員らは口元をほころばせながら、その一枚一枚に目を通していました。

なお、同センターの廃止に伴い、千畑学校給食センターを「北学校給食センター」、仙南学校給食センターを「南学校給食センター」とそれぞれ名称を改めました。これにより六郷地区の給食は、六郷小学校及び六郷東根小学校を北学校給食センター、六郷中学校を南学校給食センターで行います。



3月末で廃止された六郷学校給食センター



六郷小学校の卒業生から寄せられたメッセージ

あなたの「声」
を町長に直接
伝えませんか

4月のふれあい談話室

期 日	時 間	場 所
4月18日(水)	午後5時～ 午後6時30分	六郷庁舎 (2階町長室)

町長が町民の皆さんから、町政へのご意見やご要望を直接お伺いします。

また、面会は随時受け付けますので、事前に町長公室秘書広報班にご連絡ください。

問い合わせ

役場(六郷庁舎)町長公室 秘書広報班 ☎0187-84-4900(内線1226)

町長が週1日
役場千畑庁舎
と仙南庁舎で
執務

移動町長室

曜 日	時 間	場 所
毎週火曜日	午前9時～	仙南庁舎
毎週木曜日	午後3時	千畑庁舎

町長が毎週1日、役場千畑庁舎と仙南庁舎で執務していますので、ご用のある方はお立ち寄りください。

なお、会議への出席などにより、不在の場合や実施できない場合があります。

風

美郷町長 松田知己



「軽やかに前向きに」

ようやく春到来です。優しい日差しに誘われて顔を覗かせる草花の緑に、自然と心軽やかな気分になります。みなさんはいかがでしょう。

こうした軽やかな気分は、日頃重苦しく考えてしまう案件も違った視点での考慮を促し、思わぬ良い解決法を見出すきっかけになったりします。性格的なこともありますが、私は大切にしたい気分の一つです。

先日も大きな仕事の一つ片付き、重石の取れた気持ちで何気なく画集を眺めていたら、見慣れた絵画からこれまでにならぬ明らさを伴った閃きを感じました。ふと暗中模索の案件が思い起こされ、瞬発的にこれまで考えたことがなかった道筋を見出しました。やはり軽やかな、あるいは前向きな気持ちは必要だなと思った次第です。

さて、こうした気持ちの持ち方は町づくりにも必要と私は思っています。先月、議会からご承認いただいた「地販地消推進条例」も、こうした考え方で具体化させていただきました。つまり、地域の活性化には、まずはみなさんが心軽やかに前向きになることが必要で、そうなることで否定的な気持ちからは浮かんでこない、思わぬ面白いアイデアや意欲が生まれ、ひいては地域の活性化が図られていくという考え方です。

「地販地消」という言葉は町職員の造語で、他にはない美郷独自の概念、「地域で販売、地域で消費」の意味です。町の農業、商業、工業が連携を図り、地域内の生産、販売努力を行っていただくとともに、皆さんには消費者として町内産品をできる限り購入、消費していただくというものです。そうすることで町の産業振興や美郷意識の醸成、更には地域融和を進めたい意図です。

この度は、前向きになっていただくための意識啓発が目的ですので、具体策はこれからの検討となります。三人寄っただけで文殊の知恵となりますので、多くの方々に寄ってもらえば無二の知恵となります。どうか皆さんには、アイデア提案など具体的なご協力をお願いいたします。

さて、私ももっといろんな閃きを感じるために、まずは体から軽やかにしてみますか。どうですか？皆さんも一緒に。

写真

3月2日、六郷高校の卒業式で祝辞を述べる松田町長。